

令和4年度 第2回 清瀬市史編さん委員会 議 事 要 旨

日 時： 令和5年3月29日（水）
午後1時30分～2時30分
場 所： 市民協働ルーム（本庁舎2階）
出席委員： 根岸茂夫、谷口康浩、浅倉直美、黒川徳男、吉田律人、高久 舞、黒尾和久、
齊藤隆雄、齊藤靖夫、黒田一美、今村広司（11名）
欠席委員： 栗山 究（1名）
事 務 局： シティプロモーション担当部長、シティプロモーション課長、市史編さん室
職員2名（4名）

《次 第》

1. 開 会
2. 各専門部会 令和4年度活動報告・令和5年度活動計画
3. 『清瀬市史 6 資料編 現代』について
4. 『清瀬市史 資料調査報告 5 資料編 近世 補遺「御用留」』について
5. 『清瀬市史 7 資料編 考古』について
6. 『市史研究 きよせ』について
7. 市史講演会について
8. その他
9. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和4年度 第2回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 各専門部会令和4年度活動報告・令和5年度活動計画【資料Ⅰ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 定刻となりましたので、これより令和4年度第2回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

市史編さん事業も進み、3冊目が今年度末に出されるところまで来ております。この3年間、コロナで働き方や生活のありかた、あるいは市史の編さんについても大きな影響が出てきました。ここでさまざまな規制が緩和されますが、こうした影響のことも考えながら市史編さん事業を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、今まで市史編さん委員として活躍してこられた小西委員が昨年末、逝去されましたので、哀悼の意を示すため、皆さんで黙祷を捧

げたいと思います。ご起立願えませんでしょうか。黙祷。
ありがとうございました。

それでは、委員会を進めてまいります。議事に入ります前に、配布資料について事務局よりご説明をお願いします。

事務局 配布資料説明

2. 各専門部会 令和4年度活動報告・令和5年度活動計画

委員長 では、議事に入ります。まず、各部会長から、活動報告と活動計画をお話しいただきたいと思います。考古部会からお願いします。

考古部会長 今年度は、『清瀬市史 7 資料編 考古』の原稿を取りまとめる作業を中心に進めてきました。部会是对面とオンラインで2回行ないました。そのなかで、目次、執筆分担、図版の作成の要綱などを検討して決めました。

また、市内出土資料の作図と調査を進めています。昭和40年代に調査された強清水遺跡から出土した縄文早期、前期の土器などを再調査しています。下宿内山遺跡から出土した近世の陶磁器なども同様です。必要であれば実測をとり直し、図面を作り直します。

次に下宿内山遺跡出土の中世瓦の調査と報告をしました。また、下宿内山遺跡出土の陶磁器についての鑑定、同定を、窯元のある自治体の専門職の方に来ていただき実見していただくなどして行ないました。報告された当時と評価が変わってきているところもありますので、現在の研究水準で資料の整理と評価をし直しています。

それから、小川忠博さんという考古関係の写真ではたいへん有名な方に、資料編の巻頭カラー写真を撮影していただきました。縄文土器、縄文時代の石棒など、各時代の代表的な遺物の写真撮影をお願いしました。

また、市内出土の板碑にかかわる寄贈資料の調査を行ない、『市史研究きよせ』第8号に成果を報告しました。

そして報告の最後に、だいじな項目ですが、資料編の原稿を集めているところです。

続きまして、令和5年度の活動計画についてお話しします。

令和5年度は、資料編の原稿を5月にはまとめ、編集をして、7月に印刷業者の入札、11月に入稿というスケジュールで進める計画です。現在そのための原稿と図版の作成を進めています。

追加の調査として、縄文土器の植物種子圧痕分析などを行ないます。以上です。

委員長 ありがとうございました。ご質問、ご意見等は、全部会のお話のあとお受けしたいと思います。

では続いて、古代・中世部会の浅倉先生をお願いします。

古代・中世部会長 古代・中世部会では、資料編刊行後の活動として、主には刊行のために多くの調査で撮影した写真の整理・分類作業を行なっています。複数の専門調査員が撮影した写真を文書ごとにまとめ、1件、1件、名前をつ

ける整理・分類作業を、令和４年度も続行しました。

並行して、資料編に収録できなかった古文書について、所在及び画像入手に関する情報収集を行ない、通史編の執筆に向けて、目次案、また掲載写真類の候補について検討しました。

続きまして令和５年度の活動計画ですが、通史編の執筆分担を決め、掲載写真・挿入する図表の選定をしていく予定です。また、追加の調査を、他の部会との調整のなかでできればと考えています。

委員長／
近世部会長

ありがとうございました。では続いて、近世部会について私からお話します。

近世部会は、令和４年度は資料編の補遺であります『清瀬市史 資料調査報告 ５ 資料編 近世 補遺「御用留」』の刊行に向けて活動いたしました。この補遺については後でまた詳しくお話いたします。

また、３年後には通史の上巻刊行が予定されていますので、これに向けて、目次の検討でありますとか、他の自治体史の関係論文等の収集を行ないました。

市内の史料調査としまして、中里の渋谷信之家文書の整理を行なったほか、『清瀬市史 ４ 資料編 近世』収録外の史料調査を行ないました。

月１回程度、作業室に集まって史料を調査したほか、自宅でも関係資料を集めるなどの調査、作業、また執筆の準備を行ないました。

続きまして令和５年度の活動計画ですが、市内外の史料調査ができればと考えています。市内史料としては、渋谷信之家文書の整理を引き続き行なっていきます。市外調査として、具体的には静岡県伊豆の国市の韮山江川文庫にあります江川太郎左衛門の資料ですが、そのなかに清瀬のことが書かれたものがあると目録でわかっています。もうひとつは、名古屋の蓮左文庫にあります「清戸之図」という絵図ですが、これらの調査を行ないたいと思っております。ご存じのように、この辺りは江戸時代に尾張藩の鷹場で、中清戸の、いま御殿山と呼ばれているところに鷹場御殿があったといわれていますが、これに関する資料があれば調査できればと思っています。

通史編に向けては、目次、章立て、執筆分担を決めていきます。現在の部会員だけでは足りないと思いますので、令和５年度の半ばまでにきちんとした目次を決め、後半には執筆の依頼をしたいと考えています。以上です。

委員長

では、次に近代部会について、吉田先生お願いします。

近代部会長

令和４年度も、現代部会と合同で活動しました。主に『清瀬市史 ６ 資料編 現代』の刊行に向けての活動をしました。

近代部会のみ活動としては、諸家文書の内容を確認し、翻刻を始めました。文書量としては、多いようで少ない印象ですので、今後、発掘につとめたいと思います。府県レベルのアーカイブズを調査しましたが、目録によると、多摩の資料は移管前の神奈川県にはないことがわかりました。東京府に引き継がれたのか、もしくは関東大震災で神奈川県庁が焼けていますのでその際に失われたかと思われます。

令和５年度は、月１回、部会を開き、コロナの制限も少しずつ緩和されてきていますので、実働調査を行なっていく予定です。具体的には、東京都公文書館、埼玉県文書館の重点的な調査を行うほか、令和６年度

末の『清瀬市史 5 資料編 近代』刊行に向けた史料群の翻刻作業、執筆準備を行う予定です。以上です。

委員長 ありがとうございました。続きまして現代部会について、黒川先生お願いします。

現代部会長 令和4年度は『清瀬市史 6 資料編 現代』の刊行年度になっていましたので、刊行に向けての活動をいたしました。掲載候補史料の選択、史料の筆耕、解説の執筆、編集ならびに校正作業を行ないました。

月1回ズーム併用の部会を開く一方で、学生調査員中心の作業を、週1回作業室で行ないました。

『清瀬市史 6 資料編 現代』は、3月半ばに校了しまして、今月末納品される予定となっています。

文書の整理としまして、中里の出下家文書の整理を令和4年度から行っており、仮目録の作成まで終了していますが、令和5年度も引き続き誤字修正の作業等を行なっていきます。

近代部会との共同作業で令和5年度は『清瀬市史 5 資料編 近代』に向けての活動が始まりますが、近代部会長の指示によって調査、作業を進めていきたいと考えています。

委員長 ありがとうございました。では、次に民俗部会について、高久先生お願いします。

民俗部会長 令和4年度は、部会開催のほか、市内巡見、野塩地区の聞き取りを含む調査などを行ないました。また、郷土博物館所蔵の過去の聞き取り調査カードなどを確認し、今後の活動計画について話し合っているところです。

令和5年度は、祭りの開催が期待でき、民俗調査が入りやすくなるかと思われます。部会開催のほか、テープ起こしデータ、カードデータの整理を行ない、また、各地区の担当者による実地調査を進めていく予定です。

委員長 ありがとうございました。では最後に、結核療養部会について、黒尾先生お願いします。

結核療養部会長 結核療養部会は、令和4年度に部会が立ち上がりました。初年度は、これまでの調査状況の確認から始め、令和9年度に刊行が予定されている『清瀬市史 9 結核療養』の目次案作成に着手しました。

令和5年度は、目次案作成を継続しつつ、「病院街」の沿革や文学関連調査、また関係者への聞き取り調査・研究も継続して行なっていきます。

また、「国民病」としての結核対策が政策としてどのように行われて来たのか、また患者運動についての調査研究を開始したいと考えています。同じ感染症であるハンセン病との対比を頭に置きながら調査、研究を進めていきたいと思っています。

もうひとつ、2月に清瀬病院跡地の試掘調査の結果、病院関係の遺物が出ており、病院街への考古学的なアプローチができるかと思ひますし、歴史地理学的な要素、社会学的な要素なども取り入れていきたいと考えています。

- 委員長 ありがとうございます。各部会から令和４年度の活動報告と令和５年度の活動計画についてお話いただきましたが、ご質問等ございますでしょうか。
- 委員 近現代のところで、文書の「筆耕」と「翻刻」は、作業としてなにか違うのでしょうか。
- 現代部会長 基本的には同じです。もともと活字であった史料を入力データ化するときに「筆耕」、崩し字を読み取って文字化するときに「翻刻」ということが多いです。明治以降は崩し方が自己流になってくるので、人によって違ってきます。
- 近代部会長 加えて、鉛筆字とペン字によって崩し方が違っていたりもします。
- 委員 「国語」ができたことは、なにか影響していますか。
- 現代部会長 年代が下るごとに楷書が増えていきますが、それでも戦前期は行政文書にくずし字が使われていたり、手紙についてもくずし字で書く習慣があります。
- 近代部会長 劇的に変わるのは占領期以降でしょうか。
- 委員 ハンセン氏病資料館に子どもが学校から見学に行きましたが、授業のカリキュラムにこうしたことが取り入れられたのはいつごろからのことなのでしょうか。
- 結核療養部会長 おそらくハンセン病の問題を学校教育の中で取り上げているのは、裁判で判決が出て国が謝罪し、補償し、名誉回復をするということが決まってからです。学校教育でも、特に療養所のある自治体においては、実態を知ってもらいたいという取り組みがあります。命の問題なので、命をだいじにすることがいちばんだいじだということを、入所者の人たちと話をすることで感じてもらう。そうしたことが定着したのはおそらく２００１年以降です。それが大きく広がりを見せたのは、一部の中学校の教科書に取り上げられてからです。人権問題として、ジェンダーや障害者、老人などの問題とならんでプログラムの枠組みに入ってくるので、取りあげる学校が増え、アクセスにつながっています。子供たちの感想も全部保存してあるのですが、いずれもしっかり書かれています。
- 結核でそういうことがあるかという、法のたてつけも、補償の問題も違うので、すぐには出てこないのですが、潜在的にはある問題なので、啓発は市史のなかでもひとつの課題だと考えています。「疾病と人権」というサブテーマも潜ませていければと思っていますので、ご意見など、ぜひお寄せいただけたらと思っています。
- 委員長 ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。
- 委員 了承

3. 『清瀬市史 6 資料編 現代』について

委員長 『清瀬市史 6 資料編 現代』について、黒川先生お願いします。

現代部会長 3 月末日納品という手はずになっています。

まず、現代をどこからにするかが重要な問題でしたが、ひとつは医療地区の形成が戦前から始まっていること、また、清瀬において農業は重要な問題ですが、特に畑作地帯であるということを含めて食糧の統制の問題が重要で、戦中期から始まり戦後まで続いている。米麦甘藷などの供出が行われていたのですが、そうしたことを考えると一般的な 1945 年の 8 月 15 日を以て現代とするというのは具合が悪いので、昭和元年から現代とするということになりました。

末尾については、バブル経済はもはや歴史であり、バブルのあとの平成不況も歴史になろうとしていますので、東日本大震災までを収録の範囲とするということにいたしました。かなり長い期間ですが、これを「現代」と規定して、そのなかでの資料を掲載していくということになりました。

他の自治体との比較で言うと、農業関係、特にひとつが戦後展開された農民組合関係の資料が諸家文書から出てきましたし、また、農地改革関係の資料は、もともと農業委員会が所蔵していた資料が郷土博物館に移管になっており、これを使うことができましたので、農地改革における村内の動きを行政文書から追うことができました。

農村地域というと、青年団とか青年学校が重要なものとして比重を占めてくるのですが、青年学校の記録、日記ですね、それから青年団の記録でひとつの章をつくりました。この辺りで清瀬の独自性を出せた資料編になったかなと思っています。

委員長 もうすぐ刊行されるということですが、なにかご意見などございますか？あるいは刊行物をご覧いただいてまたご意見いただけたらと思いますがよろしいでしょうか。

委員 了承

4. 『清瀬市史 資料調査報告 5 資料編 近世 補遺「御用留」』について

委員長／
近世部会長 続いて、その他の刊行物についてですが、『清瀬市史 資料調査報告 5 資料編 近世 補遺「御用留」』について、私からお話します。

令和 3 年度に『清瀬市史 4 資料編 近世』を刊行しましたが、必要だと思われる史料全部を載せることは、紙幅の関係で、できませんでした。「御用留」は、清瀬の場合 9 点あり、資料編にはこのうちの 1 点だけを掲載しました。未掲載の 8 点について、このたび補遺という形でまとめました。

「御用留」は、領主から村に伝達された文書です。回覧板のように次々に村に伝えられたもので、村で内容を写して次の村に持っていく、次の村でも写してまた次の村に回す、というものだったのですが、その内容を書き留めておいたものが「御用留」で、江戸時代に、いつごろ、どう

いう命令が領主から来たのか、具体的な内容がわかる資料です。こちら
ももうすぐ刊行されますので、ご覧になっていただけたらと思います。

5.『清瀬市史 7 資料編 考古』について

委 員 長 次に、来年度刊行予定となっております『清瀬市史 7 資料編 考古』
につきまして、谷口先生お願いします。

考古部会長 令和 5 年度に刊行するもので、内容についてご説明します。先史時代
のものだけでなく、歴史時代のものも含めて市内の遺跡から出土した考
古資料を収録していく、というものです。

最初の章では、生活の舞台となった地域の地形、地質、古環境とその
変遷について、古環境は気候の変動とそれにともなった植生史が中心と
なりますが、こういうものを冒頭の章で記述しています。

次の章からは時代別に、古い時代から、旧石器時代、縄文時代、弥生・
古墳時代、古代、中世、近世、近現代のものを収録していくというもの
です。

あとは自然科学的な分析を進めています。例えば縄文土器に残る種子
圧痕の調査ですが、こうした成果も収録していきます。

だいたいこういう構成になっています。

委 員 長 ありがとうございます。『清瀬市史 7 資料編 考古』につきまして、
なにかご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

委 員 了承

6.『市史研究 きよせ』について

委 員 長 続きまして、『市史研究 きよせ』について、事務局からお願いします。

事 務 局 ただいま、第 8 号を 700 部印刷しております。約 80 頁で、内容としま
しては、『清瀬市史 6 資料編 現代』、『清瀬市史 資料調査報告 5 資料
編 近世 補遺「御用留」』刊行について、史資料紹介や論考、講演会報告、
テーマ展示「結核療養と清瀬」の報告、市史編さん委員による石碑・石
仏探訪、専門部会の活動報告といった構成になっております。表紙には、
昭和 35 年の柿の下の写真を配しました。

次号 9 号につきましては、ゆとりをもって刊行できるよう、前倒しの
スケジュールを考えたいと思っております。執筆テーマ等、早めにご提
案いただけますようご協力よろしくおねがいします。

委 員 長 みなさま、よろしくご協力ください。

7. 市史講演会について

委 員 長 次に、市史講演会について、事務局からお願いします。

事務局

3月2日木曜日の午後2時半から、アミューホールにおいて市史講演会を開催いたしました。今回は、さきごろ『清瀬市史 4 資料編 近世』をまとめられた近世部会長の根岸先生に講師をお願いし、「村絵図と古文書に見る江戸時代の清瀬」と題してお話いただきました。

コロナに係る規制もいくぶん緩やかになりましたので、今回は事前申し込みなしで参加を受け付けました。当日は、51名の方の参加がありました。また、会場で刊行物の販売も行ないました。

来年度につきましては、刊行から間をあけないタイミングで開催できればと考えています。『清瀬市史 6 資料編 現代』を担当された現代部会の黒川部会長にお願いできればと思っております。

委員長／
近世部会長

市史講演会当日の資料をお手元にお配りしていますが、そのなかに興味深い絵図がありますので、ご紹介したいと思います。

近世の資料編刊行後に確認した芝山の地図です。「東」と書いてあるところに細い道がありますが、これがほぼ現在の小金井街道です。太い道は、志木街道の三俣のところから病院街に抜け、まっすぐ行くと全生園にぶつかる道で、明治時代末までは恩多まで通っていたのですが、全生園ができたときに道が途切れました。

添付しました清瀬市内小字の図からは、現在の松山、竹丘地区のところが、下清戸、中清戸になっているのがわかると思います。境が斜めの線になっているのですが、こちらの古文書の絵図にも斜めの線が2つ入っているのがわかるでしょうか。東側の斜めの線が下清戸の境で、もうひとつの薄い斜めの線が中清戸の境の線になっているようです。

享保10年頃に江戸幕府が新田開発を行ったのは有名な話ですが、この絵図は、そのころ芝山という灌木地帯が下清戸と中清戸に分割されて開発を命令された、そういう時期のものです。1725年が享保10年ですが、その年あるいは前の年に、そうした芝山といううっそうとした地域が各村に分割されている。芝山は今の病院街にあたるところで、この地域に関する近世の資料はほとんど出てきませんでしたが、その意味で、これはたいへん貴重な史料と言えます。

この絵図については、資料編の掲載には間に合わなかったのですが、今回、『市史研究 きよせ』第8号に、近世部会の専門調査員であります清水正彦氏が「芝山の御林と新田開発関連絵図」と題して史料紹介の記事を寄せていますので、ぜひご覧ください。

8. その他

委員長

その他につきまして、なにかございますでしょうか。

事務局

次の委員会についてですが、次回は令和5年7月から8月ごろに予定したいと考えております。近づきましたら日程調整のご相談をと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員長

次回委員会は7月か8月予定ということですが、よろしいでしょうか。

委員

了承

委 員 長 他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委 員 了承

9. 閉 会

委 員 長 ではこれで、令和4年度第2回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

専門部会 令和4年度活動報告・令和5年度活動計画

考古部会

令和4年度活動報告

- ①考古部会開催 対面とオンライン計2回実施
- ②市内出土資料の作図と調査 昨年度から継続して行なった
- ③下宿内山遺跡出土の中世瓦1点につき、調査と成果報告
類例として新座市・朝霞市出土資料の調査を行い『市史研究 きよせ』第8号に報告
- ④下宿内山遺跡から出土した中世末～近世初頭の陶磁器についての鑑定
愛知県、静岡県の専門家を招いて産地および生産時期の鑑定を行った
- ⑤下宿内山遺跡から出土した近世の波佐見焼について、鑑定結果を受け取った。
- ⑥写真家小川忠博氏により資料編巻頭カラー写真の撮影を行なった
- ⑦昭和47年の市内板碑にかかわる寄贈資料の調査と成果報告
調査を行ない『市史研究 きよせ』第8号に報告した
- ⑧『清瀬市史 7 資料編 考古』原稿執筆
今年度末に原稿の締め切りを設定しており、すでに複数の原稿が提出されている

令和5年度活動計画

- ①『清瀬市史 7 資料編 考古』を刊行予定である
- ②7月入札、11月入稿を目指して作業を進めていく
- ③入稿に向けて、引き続き原稿・挿図を作成する
- ④追加の土器圧痕分析を行う（野塩前原遺跡・中里下戸遺跡）

古代・中世部会

令和4年度活動報告

- ①調査において得られた多数に及ぶ画像データについて史料1点ごとにデータ名を付す
整理分類作業
- ②収録できなかった古文書について所在および画像入手に関する情報収集
- ③通史編執筆に向け目次案検討および掲載写真類の候補検討

令和5年度活動計画

- ①通史編の執筆分担決定
- ②掲載写真・挿入図・表類の選定
- ③追加の調査

近世部会

令和4年度活動報告

- ①『清瀬市史 資料調査報告5 資料編 近世 補遺「御用留」』刊行に向けての活動
原稿作成・整理・調整、注作成、入稿、校正
- ②『清瀬市史Ⅰ通史 上巻』刊行に向けての活動
目次の検討、他自治体史の検索・関係論文等の収集
- ③市内史料調査
 - ・渋谷信之家文書整理
 - ・『清瀬市史 4 資料編 近世』収録外の史料調査

令和5年度活動計画

- ①市内史料調査
 - ・渋谷信之家文書整理
 - ・市内史料の悉皆調査
- ②市外史料調査
 - ・葦山江川文庫調査（静岡県伊豆の国市）
 - ・名古屋市蓬左文庫調査（愛知県名古屋市）
- ③通史編集作業
 - ・章立て検討、他自治体の検索・関係論文等の収集

近代部会

令和4年度活動報告

- ①諸家文書の調査及び翻刻
- ②アーカイブズの目録調査

令和5年度活動計画

- ①『清瀬市史 5 資料編 近代』刊行にむけた資料群の翻刻作業
- ②東京都公文書館及び埼玉県文書館の重点的な調査
- ③その他、資料集刊行にむけた執筆準備

現代部会

令和 4 年度活動報告

①文書整理

中里 出下家文書（封筒及び目録の誤字修正を残して、仮目録の作成終了）

②『清瀬市史 6 資料編 現代』刊行に向けての作業

掲載候補史料の選択、史料の筆耕、解説の執筆、編集作業、校正作業

令和 5 年度活動計画

①文書整理 中里 出下家文書の封筒及び目録の誤字等修正作業

②『清瀬市史 5 資料編 近代』刊行に向けての共同作業

吉田近代部会長の指示により作業を進める

史料の収集（東京都公文書館ほか所蔵機関）

民俗部会

令和 4 年度活動報告

6 月 令和 4 年度第 1 回民俗部会開催

7 月 30 日 巡見

9 月 28 日 病院街の生活関連調査

12 月 10 日 野塩地区聞き取り調査

12 月 30 日 野塩地区調査

〈収集資料〉

- ・集落別人口動態の整理 昭和 15 年～令和 2 年までの清瀬市および集落別人口のデータ
- ・寺社関係資料
- ・石仏、石碑一覧表
- ・過去の聞き取りカード（博物館所蔵）
- ・過去の聞き取り調査音声（博物館所蔵）
- ・過去の聞き取り調査テープ起こし（博物館所蔵）
- ・過去の調査カード（博物館所蔵）

令和 5 年度活動計画

2023 年 8 月 民俗部会開催

2024 年 3 月 民俗部会開催

〈調査計画〉

- ・テープ起こしデータ、カードデータの整理
- ・担当地区への実地調査

結核療養部会

令和4年度活動報告

- ①結核療養部会の立ち上げ
- ②これまでの調査状況の確認
- ③『清瀬市史 9 結核療養』目次案の作成着手

令和5年度活動計画

- ①『清瀬市史 9 結核療養』目次案の作成継続
- ②「病院街」の沿革、「病院街」の文学、「病院街」に関わった人々への聴き取り調査・研究の継続
- ③「国民病」としての結核対策（政策）および患者運動についての調査研究の開始
- ④病院街への考古学的アプローチ